

言語文化 研究

16巻3号

2005年2月

February 2005 / vol.16 no.3

特集

春季企画 / 連続シンポジウム

先住民という言葉に内実を与えるために

-
- 3 シンポジウム
伝統は近代を変えることができるか—「野生の思考」の挑戦—
渡辺公三
- 5 採集狩猟民の伝統と近代
池谷和信
- 13 アイヌの生態環境知識の再構築
岩崎・グッドマン まさみ
- 19 モンゴル遊牧民における伝統のグローバル化—
小長谷有紀
- 27 コメント
大村敬一 / 遠藤 彰
春山貴子 / スチュアート ヘンリ
-
- 43 シンポジウム
先住民の権利と法—近代の力を逆手にとる—
崎山政毅
- 49 先住民問題は何を語るか
太田昌国
- 57 先住民の権利と自決権否定の論法
手島武雅
- 77 差異を愛する権利—「アイヌの知識」が主張する野生の秩序—
大村敬一

-
- 87 シンポジウム
国語学とアイヌ語学の分岐点—金田一京助と知里幸恵—
西 成彦
- 91 忘れられた書物—知里幸恵編著『アイヌ神謡集』—
丸山隆司
- 101 「帝国大学言語学」の射程—上田万年から金田一京助へ—
安田敏朗
- 113 知里真志保の日本語訳におけるオノマトベに関する試論
佐藤 = ロスベアグ・ナナ
- 127 質疑応答
-
- 143 シンポジウム
同時代人としての知里幸恵と宮沢賢治—はじめに—
中川成美
- 145 宇宙の中心に立つ知里幸恵と宮沢賢治の姿勢
池澤夏樹
- 157 『アイヌ神謡集』と賢治の童話—鬼神・魔神・修羅の鎮魂—
秋枝美保
- 169 国境と詩のことは—宮沢賢治と知里幸恵—
坪井秀人
- 185 討論

凝固する近代（文化理論研究）

-
- 191 はじめに
向井俊彦
- 193 （インタビュー）歴史と向き合うということ
—ドイツ史家、歴史教育者、そして日本の市民として— 末川 清 / 小澤卓也
- 215 オランダ・エリアス学派—苦悶する1980年代—
市井吉興

研究ノート

-
- 227 ヴェーバーの「価値自由性」再考
—ホルクハイマーの解釈を参照点にして—
尾場瀬一郎

個別論文

-
- 237 武田泰淳と胡適—『十三妹』を中心に—
郭 偉

研究ノート

-
- 251 チョムスキー：最適性理論と構造主義をめぐる
三宅正隆

